

大阪府立茨木高等学校 学校運営協議会 平成 30 年度委員等

委員

添田 晴雄（会長）
岩井 八郎（副会長）
柴田 仁
中村 卓
樫本 佳子
石崎 亜矢子

校長及び事務局員

岡崎 守夫（校長）
山脇 和美（教頭）
太田 明美（事務長）
富本 佳照（首席）
本管 克江（首席）
神前 喬（教務主任）
森 登紀子（進路指導主事）
前田 保彦（生徒指導主事）

平成 30 年度 第 1 回学校運営協議会議事

日時：平成 30 年 6 月 2 日（土）14:00～16:00

場所：大阪府立茨木高等学校 校長室

出席者：【 委 員 】添田晴雄、岩井八郎、中村卓、樫本佳子、石崎亜矢子
（柴田仁委員は欠席）

【校長・事務局】岡崎守夫、山脇和美、太田明美、富本佳照、本管克江、神前喬、
森登紀子、前田保彦

1. 開式の辞
2. 校長挨拶
3. 委員紹介・事務局職員紹介
4. 学校運営協議会の位置づけ
会長（添田委員）及び副会長（岩井委員）選出

5. 議事

- ① 本年度の「学校経営計画」について
- ② 本年度の「学校教育計画」について
- ③ 教科書選定について
- ④ 質疑応答
- ⑤ 次回運営協議会日程

6. 閉式の辞

事務局からの「議事」に係る説明

①「学校経営計画」について

<校長より>

I 「めざす学校像」について

【学校像】～世界で活躍する人物を輩出する学校。

【生徒に育みたい力】～世界に貢献できる有為な人物を育成する。

(.....部分が昨年度との変更点：昨年度までは 人材 としていた。)

II 「中期的目標」について

中期的とは今年度から3年間のこと。大きな変更点はなし。

3・・・「自主自律の精神」の深化についての指標として、遅刻件数よりも相応しいものを設定できるよう検討していきたい。

III 「今年度の重点項目」について

1 (1) イ・・・TOEFL iBT 英語教育は今年度で一区切り。大学入試の動向に対応しながら、今後も引き続き英語の4技能(5領域)を向上させていく。

4 (1) ア・・・大学入学共通テスト、次期学習指導要領については、臨機に対応していく。

エ・・・「働き方改革」については推進していく。

②「学校教育計画」について

<教頭より>

○「73期北辰プロジェクト」

今年の1年生を例として、3年間を見通した生徒の教育計画を説明。入学後すぐのspringセミナーにおいて「茨高生になる」を目標とし、2年生半ばのオータムセミナーにおいて「受験生になる」を目標とする。

○「部活動一覧」

リーダー育成プログラムⅠやⅢに関わっている生徒の数の多さや部活動の多様さがわかる。

<首席より>

○「英語科」

- ・今年度の1年生はGTECを取り入れる（TOEFLも継続していく）。本校では従来から「話す」ことにも重点を置いており、現在、「聞く」「読む」「話す（やり取り、発表）」「書く」の4技能（5領域）を統合した内容の授業を展開しているため、新しい大学入試の英語の方針は茨高生に向いており、むしろ歓迎すべきだともいえる。
- ・ディベート指導については、まずは1年次に「保健」の授業において日本語でディベートを行い、ディベートとはどのようなものかということを学習している。その上で、2年次に英語でのディベートを行っている。
事後アンケートから考察すると、指導のねらいとした部分については良い数値が見られるが、効果としてはまだ十分とは言えない部分もあるので、今後の課題としていく。
- ・「TOEFL iBT Complete Practice Test」、「英語イメージプログラム」「茨木 Brothers&Sisters プログラム」も、相互に関連させていく。

○「高い志」の涵養を図る教育システムの再構築

- ・京都大学研究室訪問
生徒は積極的に参加していた。今年度も継続。
- ・東京スタディーツアー
視野を広げるという点でも効果的であり、今年度も継続する。東京久敬会の方々との交流も有意義。
- ・課題研究
今年度は、後期からの課題研究の開始に先立ち、助言していただく大学の先生に7月に来校いただき、課題研究の内容や進め方についての指導担当教員との打ち合わせを予定している。2月の校内発表会もさらに充実したものになるよう、企画している。

<教務主任より>

- ・課題研究の、科目としての評価規準を明確に定めていく。
- ・いかに生徒の主体的に課題に取り組む態度を伸ばしていくのかを考えながら運営していく。

<進路指導主事より>

- ・「北辰プロジェクト」は、各学年が策定している。73期（今年度入学）の北辰プロジェクトでは、これまでより模試を1回減らし、GTECを取り入れている。
- ・2年生以降は、大学入学共通テストの状況を見て、変更の可能性もある。
- ・大学入学共通テストは、高校での3年間の取組みが評価される。まさに、茨高生向きであるといえる。
*その後、70期生の進路状況等について説明。

<生徒指導主事より>

- ・リーダー育成プログラムⅠは各クラブの代表者対象の取組みである。昨年度は11回実施した。第6回は外部から講師を招いて講演を行い、第10回は卒業生から現役生に話をしてもらった。自習室の開設も、クラブ代表者会議からの要望であった。
- ・リーダー育成プログラムⅡは、クラスのHR委員対象の取組みである。昨年度は9回実

施した。第9回は外部指導者によるレク・アクティビティー等のプログラムと、講演会を実施した。

- ・リーダー育成プログラムⅢは、クラブサポートとして、理学療法士のサポートを受けて、負傷の予防や、負傷後のリハビリを兼ねたトレーニング法等の指導をしてもらっている。部単位の指導と個別指導とがある。昨年度は12回実施した。

③教科書の選定について

高校の教科書選定のしくみを説明。委員の皆様には、第2回学校運営協議会で、またPTA役員の皆様には役員会で選定の報告と意見聴取を行いたい。

④質疑応答

<TOEFLについて>

委員：本校生のTOEFLのスコアはどれくらいなのか。

事務局：昨年度は、TOEFL iBT Complete Practice Test で80点以上が4人、60点以上が14人であった。

委員：大学進学後の学習等を考えると、高校時点では70点以上をめざすとよいのではないか。

<大学入学共通テストについて>

委員：高校での学習内容と受験しようとする大学の方針が異なると、有利不利が出るのではないか。そのあたりの情報を得ているのか。

事務局：現在はさまざまな情報を集めているところである。

委員：英語の資格・検定試験については、現在認定されている試験であれば、茨高の学習内容なら十分に対応できると思われる。

委員：あまり振り回されないことが大切。新テストの傾向として、大量の情報の中から必要なものを取捨選択して解答を組み立てる、という一面がある。対話型のもの、教科外の活動が評価されるもの等を考えると、まさに茨高生のためにあるテストだといえるのではないか。

<1年生（73期生）について>

委員：入学から2か月程経過しているが、1年生は現在どのような様子か。

事務局：6月16日に行われる第1回学校説明会のスタッフを募ったところ、166名が応募した（本校の学校説明会では、本校生徒がスタッフとなって中学生や中学生の保護者に対して本校の特徴の説明をすることになっている）。この人数は過去最高である。すでに、茨高生としての自覚を持っているように感じられ、頼もしい。

<ICT環境について>

委員：学校内でのICT環境はどうなっているか。小学校・中学校のように一人一台タブレットを持たせているか。

事務局：一人一台のタブレットは持たせていない。その点では小学校・中学校と比較して遅れているかもしれない。しかし、教室や廊下等の掲示板を見て、そこから自分に必要な情報を得る、という力はついているのではないかと考える。メモを取るという力も、今後必要となってくると考えている。

<ディベートについて>

委員：現在、保健と英語でディベートに取り組んでいるが、テーマによっては、家庭科とのタイアップも可能ではないか。

事務局：ディベートの取組みは以前から行っているが、現在ではテーマの数も増えている。実状に応じて、テーマを見直したり入れ替えたりしている。家庭科や他の教科との連携も、テーマによっては考えていきたい。

<副読本について>

委員：今年度の副読本が、前年度までと変わったようだが、それはなぜなのか。

事務局：いずれの教科でも、毎年、生徒の学習により効果的なものを、と考えて副読本を選定している。その教材で、どのような力をつけてほしいのかということ、生徒にもっと伝えていくよう、努力する。

⑤次回運営協議会の日程

第2回学校運営協議会 平成30年10月6日（土） 午後2時～4時

6. 閉式の辞